

千葉県の防災教育と市原市小学生の防災意識の現状分析 —市民の防災力向上に向けて その20—

正会員 ○ 小野田拓夢*1
正会員 伊村 則子*2

防災 地震 小学生
教育事例 防災意識 アンケート

§ 1 はじめに

本報では 2007 年度より防災教育を本格的に開始した千葉県に注目し、小学校における防災教育の方針となる基本目標と指導内容を分析した。また、千葉県市原市で小学生と保護者に対し、地震防災に関する知識や興味など現状を把握するべくアンケート調査を行った。本報では小学生の調査結果を報告し、次報で保護者および昨年度のアンケート調査¹⁾との比較などについて報告する。

§ 2 教育委員会のホームページ調査の概要

千葉県下の小学校で実施された防災教育の内容と学習効果を調査した。調査は 2008 年 6～8 月に、千葉県各市町村の教育委員会関連のホームページ(以下 HP と記す)²⁾を対象に、教育部門の公開状況とこれまで行われた防災教育の教育実践事例を集めた。また防災教育チャレンジプラン³⁾も併せて調べ、県下の教育事例を収集した。なお、千葉県は 36 市町村 17 町 3 村の 56 市町村あり、公立 833、私立 8 小学校がある⁴⁾。また文部科学省が平成 8 年度から防災教育の指導内容としている資料⁵⁾もあわせて分析した。

§ 3 千葉県小学校における防災教育の現状

まず県下 56 市町村の教育部門の HP 公開状況を調査したところ、**図 1**に示すように教育制度などの情報を公開している市町村は約 60%あるが、独自の HP を開設している市町村は 30%に留まり、実際に行っている指導や教育内容までふれていないものが多く、情報公開が未だ進んでいないことがわかった。このうち、防災教育の記述があった市町村は**表 1**に示す 12 市町村、防災教育事例は 15 事例と少ない。これに防災教育チャレンジプランの調査結果を加え、防災教育の詳細を**表 2**にまとめた。

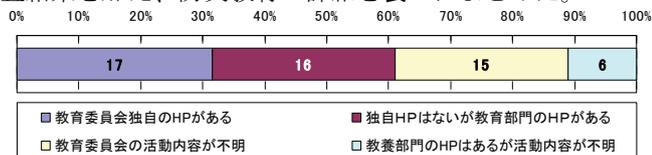


図 1 千葉県市町村の教育委員会 HP 設置状況

実施年をみてわかるように 2007 年度開始の県消防地震防災課と県教育庁の推進事業が始まった最近の事例が多い。推進事業では他校の先駆けとなるモデル校を数校指定し、通年でモデル授業を学校全体で行う事例が多い。実施内容は起震車体験、消火訓練、煙体験が各校で行われ、非常食作りや児童引渡し訓練などもある。また、防災マップ作りでは、マップ制作を通して地域の地理を把

表 1 小学校事例調査

市町村名	小学校数		教育部門のHPの掲載状況	事例数	防災教育実施年度および小学校名
	公立	私立			
市川市	37	3	△	2	H20市川市立大野小/H17市川市立行徳小
習志野市	16	0	△	1	H19習志野市立大久保小
松戸市	44	1	○	1	H19松戸市立小金北小
柏市	41	0	○	1	H20柏市立酒井根西小
我孫子市	15	0	△	1	H17我孫子市立湖北小
成田市	20	1	△	1	H19成田市立向台小
東庄町	5	0	△	1	H20東庄町立神代小
九十九里町	3	0	不明	1	H19九十九里小
長生村	3	0	不明	1	H20長生村立一松小
館山市	11	0	△	2	H19館山市立富崎小/H17館山市立北条小
市原市	45	1	○	1	H20市原市立養老小
鴨川市	12	0	△	2	H18君津市立天津小/H18君津市立小湊小

注) ○: 独自の HP 有り、更新もしているもの
△: 独自の HP は無いが教育に関するページが市 HP にあるもの
不明: 教育に関する HP が無いもの、あるいは教育部門の活動内容が不明のもの

表 2 防災教育実践事例

小学校名	実施年	学年	学期	分類	詳細
佐倉市立印南	1983	教諭		独自	実践論文有
市川市立行徳	2005	6年	通年	チャ	ポスターや防災マップ作り
市川市立大野	2005	6年	通年	チャ	クラス単位での地震劇、合同地震防災避難訓練
館山市立北条	2005				自主防災防犯訓練、救出訓練
君津市立天津	2006				学校の防災体制及び防災ハンドブックの作成
君津市立小湊	2006				
我孫子市立布佐南	2007				防災ゲーム活用授業、防災新聞作り
習志野市立大久保東	2007	全体	通年	モ	地震体験車、炊き出し、応急の仕方、水消火訓練、バケツリレー
松戸市立小金北	2007	全体	通年	モ	防災マップ、非常食作り、消火訓練、梯子車体験、起震体験、煙体験、炊き出し体験、仮設トイレ
成田市立向台	2007	全体	通年	モ	テーマにそった防災授業、水バケツリレー、水消火器、煙体験ハウスなど
九十九里町立九十九里	2007	全体	通年	モ	災害伝言ダイヤル、予備知識の学習、地震体験車
館山市立富崎	2007	全体	通年	モ	着衣水泳、危険地区調べ、元禄大地震大津波調べ
市川市立大野	2008	全体	通年	モ	防災ポスター作成、災害ボランティア
柏市立酒井根西	2008	全体	通年	モ	地震災害想定避難訓練、地域協働防災訓練
東庄町立神代	2008	全体	通年	モ	児童引き渡し訓練、煙体験、大規模災害を学ぶ
長生村立一松	2008	全体	通年	モ	海岸清掃、侵食・危険箇所の確認、引き渡し訓練
市原市立養老	2008	全体	通年	モ	起震車体験、非常食試食体験、煙体験

注) チャ: 防災教育チャレンジプラン モ: 千葉県防災教育研究モデル校 空欄: 不明

握し、避難の必要性や災害発生時の心構えができるなどの効果があったほか、地域と協力しながら防災マップを作った小学校では、地域との連携が深まり、双方の防災意識が向上する効果が実施校で報告されている。小学校での防災教育の実施は、教育プログラムの内容を工夫すれば地域社会との連帯感を強化する一つのきっかけになっている。また、地域の特徴にそった授業も行われ、過去に津波が多い地域では津波に関する授業を行っている。

§ 4 アンケート調査の概要

千葉県は 2007 年度より県消防地震防災課と県教育庁が協同で防災教育の推進事業を始め、その一環として、児童や県民の防災意識の現状を把握するため、千葉県市原市の児童と保護者にアンケート調査を行った。調査は昨年度も同様の調査¹⁾を行い、これとほぼ同規模になるよう、市原市の全 45 公立小学校のうち、児童と保護者各 5400 名の予定で計画し、アンケート調査協力校 17 校が選ばれ、2008 年 9 月に千葉県消防地震防災課から調査協力校にアンケート用紙を配布した。調査は、児童は小学校で実施

し、配布 5337 部、回収 5213 部(回収率 97%)、保護者は児童を通じて配布回収し、配布 4147 部、回収 3798 部(回収率 92%)となった。アンケート用紙は低学年用(対象 1~2 年生)、高学年用(対象 3~6 年生)、保護者用の 3 種類に分けて、回答を通して防災の現状を理解してもらうことを目的に作成し、回答者の 3 つの属性によって質問数やレベルは異なるが、表 3 に示す「子供が普段過ごす空間」「子供が無事に家族と合流できるために必要な内容」「興味・度合いや意識の現状」の 3 項目から構成される。また保護者には地震防災を学習する解説書を回答後に配布した。なお、アンケートの内容は表 3 に★を付した新規の調査項目を追加したほかは、昨年度と同じである。

表 3 アンケートと解説書の構成

■アンケート		■解説書	
掲載項目		質問の目的	掲載項目
子供が普段過ごす空間(子供の命を守るために)	普段使用している空間での初期対応	初期対応:通学路 初期対応:学校 初期対応:自宅	●
	普段使用している空間の構造的な安全性	建物(ハード)の状況:通学路 建物(ハード)の状況:学校 建物(ハード)の状況:自宅	●
	普段使用している空間の使用状況の安全性	使用状況:通学路 使用状況:学校 使用状況:自宅 室内安全対策 使用状況:自宅 場面想定	●
子供が無事に家族と合流できるために必要な内容		通学路 学校 自宅 —(家族との連絡方法)	●
興味・度合いや意識の現状		帰宅困難対策	●
		地震発生の可能性	●
		避難所	●
		防災看板	●
		緊急地震速報	●
		防災マップ	●
		備えの姿勢	●
		備蓄	●
		★防災行動	●
		★必要設備	●

注) ★家庭の子供の人数:家庭の子供の数も合わせて聞いた。

§ 5 調査結果からみる児童の特徴

まず「子供が普段過ごす空間」に関する特徴として、初期対応は通学路・学校(授業中)・自宅ともに、低・高学年とも正しい行動が最も多い結果となり、半数以上の児童が理解していた。特に図 2 の授業中の場面では「机の下にもぐって頭を守る」の回答が 90%を超えた。

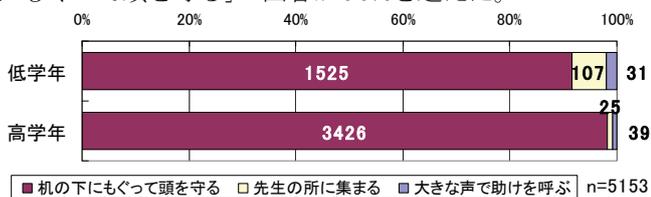


図 2 学齢別にみた初期対応 (授業中)

また就寝時の空間の安全性について、低学年は「本棚や机が倒れてきても潰されない場所で寝ている」と回答した児童が最も多く全体の 34%、「本棚や机は倒れないようにしてある」は 14%で、これらを地震時に身を守る空間とみなすと、安全な部屋で寝ている低学年児童は半数以下(48%)といえる。一方、高学年は「家具が倒れてきて潰される」の回答が一番多く全体の 33%で、低学年と同様の安全な空間で寝ている高学年児童は 37%にとどまる。

次に「子供が無事に家族と合流できるために必要な内容」については、通学途中に地震に遭った場合、「学校が家で近いほうに行く」が低学年 52%、高学年 52%と最も多かった。また、学校にいるときの連絡方法は、低学年は「先生の言うことを聞いて行動する」86%、高学年は「家族が迎えに来るまで学校に残る」57%が最も多かった。また、一人で自宅で留守番中の対処については、低学年高学年ともに「近所のおじさん、おばさんに助けをもらう」の回答が多く、36%、32%となった。

児童の地震防災に関する「興味・度合いや意識の現状」として、「市原市で地震が発生すると思うか」については、低学年 75%、高学年 76%が起こると回答した。また、小学校が避難所になることを低学年 65%、高学年 87%が知っていた。これらをクロス集計すると、図 3 のように、高学年では地震が起こると思うグループの方が避難所になることを知っている比率が高い。また、防災に関する看板を見たことがあるかについては、低学年 34%、高学年 52%となり高いとはいえない。

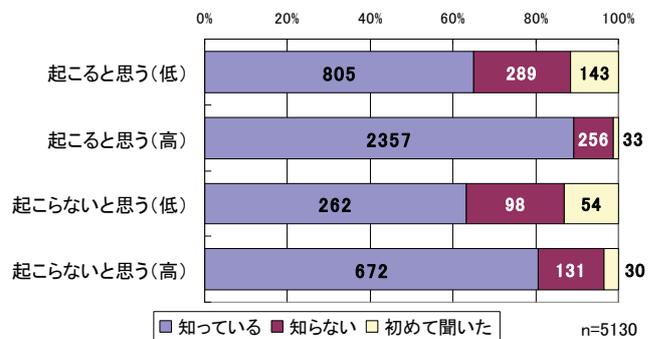


図 3 地震発生の可能性×小学校が避難所になること

自宅の備蓄状況について、低学年 27%、高学年 33%が用意していると回答した。

§ 6 おわりに

各市町村の教育委員会関連 HP には防災教育実践事例の公開は多くないが、2007 年度よりモデル校が指定され、年々実施校や実践例が増えている。県下の防災教育事例は少ないものの、アンケート調査からは小学生は初期対応を正しく理解していることがわかった。一方で 75%以上の児童が、地震が発生すると考えながらも、備えや興味・関心については質問によって回答に差があり、防災教育により興味・関心が高まるような工夫が必要である。

【引用文献】

- 1) 伊村則子, 深谷智子: 千葉県四街道市における小学生と保護者の防災意識の現状分析—市民の防災力向上に向けて その14—, 日本建築学会大会学術講演梗概集(都市計画), pp. 247~248, 2008年9月.
- 2) 千葉県: 千葉県内の教育委員会のHPリンク, <http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/kyoui-hp/kyoui-hp.htm>, 2009年3月2日.
- 3) 防災教育チャレンジプラン: <http://www.bosai-study.net/top.html>, 2009年3月2日.
- 4) スクールナビ: 千葉県の小学校, http://www.schoolnavi-jp.com/es/es_12chiba.html, 2009年3月2日.
- 5) 文部科学省: 学校等の防災体制の充実について, http://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/bousai/06051221/002/003.htm, 2009年3月2日.

*1 元武蔵野大学

*2 武蔵野大学環境学科 准教授・博士(学術)

*1 Former Student, Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ.

*2 Associate Prof., Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D